KOSUGI HOAN MUSEUM OF ART, NIKKO

■国立公園絵画

0102-NPAoJ01　中根　寛　サロベツ原野（げんや）より利尻礼文（りしりれぶん）を望（のぞ）む
1977（昭和52）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　利尻礼文サロベツ国立公園

0102-NPAoJ02　服部正一郎　知床　しれとこ
1968（昭和43）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　知床国立公園

0102-NPAoJ04　上野山清貢　摩周湖　ましゅうこ
1932（昭和７）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　阿寒国立公園

0102-NPAoJ06　松樹路人　湿原の夕映え　しつげんのゆうばえ
1988（昭和63）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　釧路湿原国立公園

0102-NPAoJ07　足立源一郎　愛別岳・比布岳　あいべつだけ・ぴっぷだけ
1953（昭和28）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　大雪山国立公園

0102-NPAoJ10　大久保作次郎　洞爺湖　とうやこ
1953（昭和28）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　支笏洞爺国立公園

0102-NPAoJ13　林　武　十和田湖　とわだこ
1953（昭和28）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　十和田八幡平国立公園

0102-NPAoJ15　向井潤吉　浄土ガ浜　じょうどがはま
1957（昭和32）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　三陸復興国立公園

0102-NPAoJ18　斎藤與里　裏磐梯　うらばんだい
1953（昭和28）年　油彩　・カンヴァス　65.2×80.3cm　磐梯朝日国立公園

0102-NPAoJ20　猪熊弦一郎　塩原の渓流　しおばらのけいりゅう
1953（昭和28）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　日光国立公園

0102-NPAoJ22　田辺三重松　中禅寺湖　ちゅうぜんじこ
1957（昭和32）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　日光国立公園

0102-NPAoJ23　中村善策　尾瀬沼　おぜぬま
1953（昭和28）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　尾瀬国立公園

0102-NPAoJ26　小山敬三　浅間山　あさまやま
1953（昭和28）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　上信越高原国立公園

0102-NPAoJ27　中村琢二　妙高山　みょうこうざん
1956（昭和31）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　妙高戸隠連山国立公園

0102-NPAoJ28　福沢一郎　奥秩父両神山　おくちちぶりょうかみさん
1955（昭和30）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　秩父多摩甲斐国立公園

0102-NPAoJ31　三栖右嗣　小笠原父島（おがさわらちちじま）から南島（みなみじま）・母島（ははじま）を望（のぞ）む
1977（昭和52）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　小笠原国立公園

0102-NPAoJ32　正宗得三郎　若葉の山中湖　わかばのやまなかこ
1930（昭和５）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　富士箱根伊豆国立公園

0102-NPAoJ37　山下新太郎　黒部峡谷鐘釣附近　くろべきょうこくかねつりふきん
1932（昭和７）年　油彩・カンヴァス　72.7×60.6cm　中部山岳国立公園

0102-NPAoJ39　和田三造　中部山岳　ちゅうぶさんがく
1932（昭和７）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　中部山岳国立公園

0102-NPAoJ40　高田　誠　夜叉神峠より見たる白峰三山（やしゃじんとうげ　み　しらねさんざん）
1977（昭和52）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　南アルプス国立公園

0102-NPAoJ41　田中忠雄　白水滝　しらみずのたき
1964（昭和39）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　白山国立公園

0102-NPAoJ43　小磯良平　伊勢神宮　いせじんぐう
1953（昭和28）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　伊勢志摩国立公園

0102-NPAoJ44　川口軌外　英虞湾　あごわん
1953（昭和28）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　伊勢志摩国立公園

0102-NPAoJ46　奥瀬英三　瀞八丁　どろはっちょう
1935（昭和10）年頃　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　吉野熊野国立公園

0102-NPAoJ48　刑部　人　鳥取砂丘　とっとりさきゅう
1970（昭和45）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　山陰海岸国立公園

0102-NPAoJ52　小野　末　隠岐の朝暾　おきのちょうとん
1964（昭和39）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　大山隠岐国立公園

0102-NPAoJ56　小絲源太郎　鳴門　なると
1953（昭和28）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　瀬戸内海国立公園

0102-NPAoJ61　梅原龍三郎　朝の仙酔島　あさのせんすいじま
1932（昭和７）年頃　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　瀬戸内海国立公園

0102-NPAoJ66　芝田米三　夕陽宇和海　せきよううわかい
1977（昭和52）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　足摺宇和海国立公園

0102-NPAoJ70　石川寅治　大観峰より阿蘇五岳を望む（だいかんぼう　あそごがく　のぞ）
1933（昭和８）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　阿蘇くじゅう国立公園

0102-NPAoJ74　三岸節子　天草　あまくさ
1956（昭和31）年　油彩・カンヴァス　80.3×65.2cm　雲仙天草国立公園

0102-NPAoJ75　黒田重太郎　九十九島　くじゅうくしま
1956（昭和31）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　西海国立公園

0102-NPAoJ78　原　精一　桜島　さくらじま
1967（昭和42）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　霧島錦江湾国立公園

0102-NPAoJ79　吉井淳二　屋久島永田岳　やくしまながただけ
1966（昭和41）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　屋久島国立公園

0102-NPAoJ80　山本　貞　仲間川原生林　なかまがわげんせいりん
1977（昭和52）年　油彩・カンヴァス　65.2×80.3cm　西表石垣国立公園

■小杉放菴の日本画

01010056	小杉未醒		葛由仙人 かつゆせんにん		
1918（大正７）年		絹本・着色		140.9×50.2cm	小杉放菴記念日光美術館
01010074	小杉未醒		湖山春色 こざんしゅんしょく		大木コレクション
		絹本・着色		143.0×50.4cm	小杉放菴記念日光美術館
01010101	小杉放菴		こぶとり		
		紙本・着色		43.5×43.0cm	小杉放菴記念日光美術館
01010133	小杉放菴		弥次郎兵衛 やじろべえ		
		紙本・着色		49.6×44.9cm	小杉放菴記念日光美術館
01010144	小杉放庵		清風明月 せいふうめいげつ		
		紙本・着色		144.2×37.2cm	小杉放菴記念日光美術館
01010146	小杉未醒		老道士 ろうどうし		
		絹本・着色		139.5×51.3cm	小杉放菴記念日光美術館
01010156	小杉放庵		観世音菩薩 かんぜおんぼさつ		
1928（昭和３）年		絹本・着色		139.6×36.0㎝	小杉放菴記念日光美術館
01010157	小杉放菴		福神 ふくしん		
		紙本・着色		45.8×50.2㎝	小杉放菴記念日光美術館

■小杉放菴の油彩画

01020007	小杉未醒		泉 いずみ		
1925（大正14）年頃		油彩・カンヴァス		179.0×363.0cm	小杉放菴記念日光美術館

次回のご案内

企画展「中島潔　新しい風―希望 明日へ生きる―」

会期：2016 年７月 16 日（土曜日）～９月４日（日曜日）

「風の画家」と称される画家・中島潔。

1943（昭和 18）年中国東北部（旧満洲）に生まれ、佐賀県で育った中島は、18 歳のとき母親の死を機に上京。アートディレクターとして活躍した後、1976（昭和 51）年に独立、本格的に画家としての活動を始めました。

1982（昭和 57）年にはＮＨＫの子ども番組「みんなのうた」のイメージ画が大反響をよび、東京の百貨店で初めての個展を開くに至ります。

その後 30 年以上にわたって描かれてきた、岩絵具や顔彩、水彩絵具による、優しく温かで、どこか懐かしさを感じさせる、子どもたちや儚げな女性の姿を描いた作品は、幅広い世代から高い人気を誇っています。

小杉放菴記念日光美術館では、中島潔が自身の大病と東日本大震災を経て制作した新作「新しい風」シリーズをはじめ、これまであまり出品される機会のなかった、1970 年代後半から手がけてきた児童書や絵本の挿絵原画もあわせ、その画業をご紹介いたします。

［国立公園絵画　作家略歴］

0102-NPAoJ01　中根　寛（なかね　かん）　1925（大正14）年－
　愛知県に生まれる。東京藝術大学に入学し、安井曾太郎や林武らに師事。卒業後も公募団体には所属せず、グループ展や個展を中心に活動する。国際形象展、現代日本美術展、安井賞展などに出品。1969（昭和44）年には半年間、ヨーロッパやエジプトに滞在した。1978（昭和53）年、東京藝術大学教授に就任し、1987（昭和62）年には美術学部長に選任される。東京藝術大学名誉教授。

0102-NPAoJ02　服部正一郎（はっとりしょういちろう）1907（明治40）年－1995（平成７）年
　茨城県に生まれる。旧制中学校を卒業後、画家を志して上京し、日本美術学校に学ぶとともに、1930年協会研究所にも通う。1929（昭和４）年、二科展に初入選。以後は同展に出品を続け、栗原信、東郷青児、安井曾太郎らに師事した。1941（昭和16）年には会員となり、翌年の二科展の出品作で日本芸術院賞を受賞する。戦後、1953（昭和28）年からは二科会の常務理事を務め、1962（昭和37）年に日本芸術院会員になった。

0102-NPAoJ04　上野山清貢（うえのやまきよつぐ）　1889（明治22）年－1960（昭和35）年
　北海道に生まれる。師範学校を卒業し、小学校の代用教員として図画などを教えていたが、画家を志して1911（明治44）年に上京。太平洋画会研究所で学ぶとともに黒田清輝や岡田三郎助に師事した。1924（大正13）年、帝展に初入選。1926（大正15）年からは連続して特選を受賞した。1929（昭和４）年、武蔵野洋画研究所を開設。郷土の風景を描いた作品を多くのこした。

0102-NPAoJ06　松樹路人（まつきろじん）　1927（昭和２）年－
　北海道に生まれる。1944（昭和19）年に東京美術学校の油画科に入学し、梅原龍三郎の教室で学ぶ。1950（昭和25）年、独立展に初入選。以後は同展に出品を続け、1960（昭和30）年には独立美術協会会員となる。1970（昭和45）年以降、安井賞展佳作賞、東郷青児美術館大賞、宮本三郎記念賞、芸術選奨文部大臣賞など、受賞を重ねた。長年にわたり、武蔵野美術大学で教鞭を執った。

0102-NPAoJ07　足立源一郎（あだちげんいちろう）　1889（明治22）年－1973（昭和48）年
　大阪府に生まれる。1905（明治38）年、京都市立美術工芸学校に入学し、翌年から関西美術院にも通った。上京して太平洋画会研究所で学んだのち、1914（大正３）年から４年間、フランスに留学する。帰国後、1922（大正11）年には小杉放菴らとともに春陽会の創立に参加。日本を代表する山岳画家として知られ、1936（昭和11）年、日本山岳画協会を設立している。

0102-NPAoJ10　大久保作次郎（おおくぼさくじろう）1890（明治23）年－1973（昭和48）年
　大阪府に生まれる。東京美術学校の西洋画科で黒田清輝に学び、1915（大正４）年に卒業。在学中、文展に初入選。1923（大正12）年から４年間はヨーロッパに滞在する。1928（昭和３）年、槐樹社に会員として出品するが、翌年には創元会を結成。その後も、旺玄会の会員を経て、1955（昭和30）年に和田三造らと新世紀美術協会を創立した。1958（昭和33）年には日展評議員となる。日本芸術院会員。

0102-NPAoJ13　林　武（はやしたけし）　1896（明治29）年－1975（昭和50）年
　東京に生まれる。1920（大正９）年、日本美術学校に入るが、すぐに退学。1921（大正10）年に、二科展に初入選すると同時に樗牛賞を受賞した。1930（昭和５）年に二科会を離れ、独立美術協会の創設に参加する。1934（昭和９）年から翌年にかけて渡欧し、帰国後はフォーヴィスム、キュビスムの影響を示す独自の様式を確立した。1957（昭和27）年には東京藝術大学の教授に就任。1967（昭和42）年に文化勲章を受章。

0102-NPAoJ15　向井潤吉（むかいじゅんきち）　1901（明治34）年－1995（平成７）年
　京都府に生まれる。1916（大正５）年に京都市立美術工芸学校を中退し、関西美術院に入る。1919（大正８）年、二科展に初入選、同年、上京し、川端画学校に通うが、すぐに京都へ戻った。1927（昭和２）年にはフランスに渡り、３年後に帰国すると、1936（昭和11）年に二科会員となる。1945（昭和20）年、行動美術協会を結成し、以後は同展に、日本の古い民家を主とした風土の美を出品し続けた。

0102-NPAoJ18　斎藤與里（さいとうより）　1885（明治18）年－1959（昭和24）年
　埼玉県に生まれる。1905（明治38）年に、京都の聖護院洋画研究所で学ぶが、翌年にはフランスに渡り、1908（明治41）年に帰国すると後期印象派を日本に紹介した。1912（明治45）年に岸田劉生らとフュウザン会を結成。翌年、同会が解散すると、文展などに出品する。1919（大正８）年に大阪美術学校の創設に協力。その後は春陽会や槐樹社を経て、1932（昭和７）年に東光会を結成した。

0102-NPAoJ20　猪熊弦一郎（いのくまげんいちろう）1902（明治35）年－1993（平成５）年
　香川県に生まれる。1922（大正９）年、東京美術学校の西洋画科に入学し、藤島武二に師事。1926（大正15）年より帝展に連続入選するが、1936（昭和11）年に小磯良平らと新制作派協会を結成。1955（昭和30）年から、活動の拠点をニューヨークに移して抽象画に転じ、1973（昭和48）年に脳血栓で倒れるまでほとんどをニューヨークで生活した。帰国後は新制作展への発表のほか、『小説新潮』の表紙絵も描いた。

0102-NPAoJ22　田辺三重松（たなべみえまつ）　1897（明治30）年－1971（昭和46）年
　北海道に生まれる。函館商業学校に在学中、美術部を結成し、卒業後も家業の呉服商を継ぐかたわら、絵画グループを組織して道展に出品していた。1928（昭和３）年、家業を廃して小学校の教員となり、同年の二科展に初入選。1945（昭和20）年に行動美術協会と全道美術協会を創立し、翌年には教職を退いて画業に専念する。道内の美術界で指導的な役割を担い、のちに東京へ移住した。

0102-NPAoJ23　中村善策（なかむらぜんさく）　1901（明治34）年－1983（昭和58）年
　北海道に生まれる。1916（大正５）年から小樽洋画研究所で学び、1924（大正13）年に上京し、川端画学校へ通う。同年、中央美術展に入選。翌年には二科展に初入選して、以後は1936（昭和11）年まで二科展に出品を続けるが、1937（昭和12）年に一水会の会員となった。1941（昭和16）年には文展に無鑑査で初出品。戦後は一水会展、日展を中心に発表し、1968（昭和43）年に日本芸術院賞を受賞。

0102-NPAoJ26　小山敬三（こやまけいぞう）　1897（明治30）年－1987（昭和62）年
　長野県に生まれる。川端画学校で藤島武二に師事。1918（大正７）年に二科展と院展に入選する。1920（大正９）年、フランスに渡り、1924（大正13）年に春陽会の会員、1926（大正15）年サロン・ドートンヌ会員となった。1928（昭和３）年に帰国後、1933（昭和８）年に春陽会を脱退して二科会の会員となるが、すぐに退会し、一水会を創立。以後、一水会や日展で活躍した。1975（昭和50）年に文化勲章を受章。

0102-NPAoJ27　中村琢二（なかむらたくじ）　1897（明治30）年－1988（昭和63）年
　福岡県に生まれる。1924（大正13）年、東京帝国大学の経済学部を卒業してから、安井曾太郎に師事し、1930（昭和５）年より二科展に出品。1937（昭和12）年には、一水会に転じて、その第１回展から出品し、1942（昭和17）年に会員となった。この間、1941（昭和16）年の新文展で特選を受賞。戦後は日展と一水会展に出品を続け、日展顧問や一水会運営委員を歴任する。日本芸術院会員。

0102-NPAoJ28　福沢一郎（ふくざいわいちろう）　1898（明治31）年－1992（平成４）年
群馬県に生まれる。東京帝国大学の文学部に在学中の1922（大正11）年、彫刻作品で帝展に初入選。1924（大正13）年にフランスへ渡り、絵画に転向すると、昭和初期の日本にシュールレアリズムを紹介した。滞欧中に、独立美術協会の結成に参加していたが、1931（昭和６）年に帰国すると、1939（昭和14）年に脱会し、美術文化協会を結成する。女子美術大学や多摩美術大学で教授を務めた。文化功労者。文化勲章を受章。

0102-NPAoJ31　三栖右嗣（みすゆうじ）　1927（昭和２）年－2010（平成22）年
神奈川県に生まれる。東京藝術大学で安井曾太郎に師事し、1955（昭和30）年から1959（昭和34）年までは一水会に出品していたが、1960（昭和35）年から1970（昭和45）年にかけて作品の発表を一切、控えている。1975（昭和50）年、沖縄国際海洋博覧会の〈海を描く現代絵画コンクール〉で大賞を受賞し、注目を浴びたあと、翌年には安井賞を受賞。その後、グループ展、個展などで作品を発表した。

0102-NPAoJ32　正宗得三郎（まさむねとくさぶろう）1883（明治16）年－1962（昭和37）年
岡山県に生まれる。1907（明治40）年に東京美術学校の西洋画科を卒業し、大正年間、２度にわたり、フランスに留学、アンリ・マティスの指導を受けた。この間、1915（大正４）年には二科会の会員となる。1947（昭和22）年には、熊谷守一や中川紀元らとともに二紀会を結成した。実兄は小説家の正宗白鳥で、本人も文筆家として知られ、晩年は富岡鉄斎の研究に専念する。

0102-NPAoJ37　山下新太郎（やましたしんたろう）　1881（明治14）年－1966（昭和41）年
東京に生まれる。1904（明治37）年に東京美術学校を卒業し、翌年、フランスに渡る。1910（明治43）年に帰国すると、同年と翌年の文展で３等賞を受賞、印象派を摂取した作風が注目された。1914（大正３）年、二科会の創立に参加して鑑査委員となる。1931（昭和６）年から４年間、再びフランスに滞在。1935（昭和10）年に帝国芸術院会員となり、二科会を脱会。翌年、一水会の設立に参加した。文化功労者。

0102-NPAoJ39　和田三造（わださんぞう）　1883（明治16）年－1967（昭和42）年
兵庫県に生まれる。白馬会洋画研究所で黒田清輝に学んだあと、東京美術学校に進み、1904（明治37）年に同校を卒業。翌年、白馬会展で白馬賞を受賞する。1907（明治40）年には文展で２等賞を受賞し、以後も受賞を重ね、文展の審査員となる。その間、1909（明治42）年にフランスに渡り、西洋画と工芸図案を学んだ。1927（昭和２）年、帝国美術院会員に就任。東京美術学校の図案科で工芸図案を指導する。文化功労者。

0102-NPAoJ40　高田　誠（たかだまこと）　1913（大正２）年－1992（平成４）年
埼玉県に生まれる。埼玉県立浦和中学校に在学中の1929（昭和４）年、二科展に初入選して安井曾太郎に師事する。1931（昭和６）年の卒業と同時に二科技塾に通い、1937（昭和12）年には一水会展に初入選した。以後は同展に出品を続け、1946（昭和21）年に会員となり、また、新文展や日展にも発表を続ける。日展の評議員や理事を務め、1978（昭和53）年に日本芸術院会員。文化功労者。

0102-NPAoJ41　田中忠雄（たなかただお）　1903（明治36）年－1995（平成７）年
北海道に生まれる。父は牧師で、自らも17歳で洗礼を受けた。1924（大正13）年に京都高等工芸学校を卒業後、本郷絵画研究所に学んで、1926（大正15）年、二科展に初入選。前田寛治に強い影響を受け、1930年協会展にも参加した。1930（昭和５）年から1932（昭和７）年にかけてフランスに滞在。1945（昭和20）年、向井潤吉、田辺三重松らとともに行動美術協会を創立。武蔵野芸術大学で教鞭をとった。

0102-NPAoJ43　小磯良平（こいそりょうへい）　1903（明治36）年－1988（昭和63）年
兵庫県に生まれる。1922（大正11）年、東京美術学校の西洋画科に入学し、藤島武二に学んだ。在学中の1925（大正14）年、帝展に初入選し、翌年には特選を受賞。1927（昭和２）年に首席で卒業すると、その翌年にはフランスに渡った。1936（昭和11）年には帝展改組にともない、猪熊弦一郎らとともに新制作派協会を結成。戦後は、東京藝術大学の教授を務める。文化功労者、日本芸術院会員であり、文化勲章を受章。

0102-NPAoJ44　川口軌外（かわぐちきがい）　1892（明治25）年－1966（昭和41）年
和歌山県に生まれる。和歌山県師範学校に在学していた1911（明治44）年、斎藤與里らによる水彩画講習会に参加して画家を志し、翌年に上京。太平洋画会研究所に入り、中村不折に師事。1915（大正４）年からは日本美術院の研究所で学んだ。1917（大正６）年、二科展に初入選し、1919（大正８）年から1929（昭和４）年までフランスに滞在。帰国の翌年、独立美術協会の結成に参加し、1947（昭和22）年に国画会の会員となる。

0102-NPAoJ46　奥瀬英三（おくせえいぞう）　1891（明治24）年－1975（昭和50）年
三重県に生まれる。1909（明治42）年、京都府商業学校を中退し、1912（明治44）年に上京、太平洋画会研究所で学んだ。1914（大正３）年、文展に初入選。以後も官展に出品して受賞を重ねる。1917（大正６）年に太平洋画会の会員となり、1924（大正13）年には槐樹社の創立に参加した。戦後は太平洋画会を退会し、1948（昭和22）年に石川寅治らと示現会を創立。日展にも出品する。

0102-NPAoJ48　刑部　人（おさかべじん）　1906（明治39）年－1978（昭和53）年
栃木県に生まれる。1922（大正11）年から川端画学校に通い、1924（大正13）年、東京美術学校の西洋画科に入学。和田英作に師事し、在学中、帝展に初入選した。1929（昭和４）年に東京美術学校を卒業。1943（昭和18）年に新文展の無鑑査となり、戦後も日展で特選を受賞する。1958（昭和33）年より新世紀美術展に参加。一度も外遊することなく、日本の風土に根ざした情感を取り入れた風景画を描いた。

0102-NPAoJ52　小野　末（おのすえ）　1910（明治43）年－1985（昭和60）年
新潟県に生まれる。1934（昭和９）年に新潟師範学校を卒業して上京、安井曾太郎に師事した。1938（昭和13）年、一水会に初入選し、1946（昭和21）年に会員となった。現代日本美術展などに出品するほか、1959（昭和34）年には国際具象派協会創立に参加。1960（昭和35）年から３年間、ヨーロッパに滞在し、1972（昭和47）年に一水会を退会する。安井曾太郎記念会の運営に携わり、安井賞の評議員や運営委員を務めた。

0102-NPAoJ56　小絲源太郎（こいとげんたろう）　1887（明治20）年－1978（昭和53）年
東京に生まれる。藤島武二の作品に感銘を受けたことから、駒込の白馬会洋画研究所で学び、東京美術学校の金工科に入学。在学中の1910（明治43）年、文展に初入選すると、翌年の卒業後、西洋画科に入学し直した。病気のため、1914(大正３)年に同校西洋画科は中退。生涯、外遊をせずに日本の風景を描き続け、1954（昭和29）年に日本芸術院賞を受賞した。日本芸術院会員。1965（昭和40）年に文化勲章を受章。

0102-NPAoJ61　梅原龍三郎（うめはらりゅうざぶろう）1888（明治21）年－1986（昭和61）年
京都府に生まれる。1903（明治36）年、聖護院洋画研究所に入り、浅井忠に学ぶ。1908（明治41）年にフランスに渡り、翌年からルノワールに師事した。帰国後には、1914（大正３）年の二科会の設立に関わった。1922（大正11）年に春陽会の設立に参加。1925（大正14）年には国画創作協会に洋画部を設ける。帝国芸術院会員や帝室技芸員に選出され、東京美術学校で教授として後進を指導した。1952（昭和27）年に文化勲章を受章。

0102-NPAoJ66　芝田米三（しばたよねぞう）　1926（大正15）年－2006（平成18）年
　京都府に生まれる。京都商業学校に在学中、洋画家である兄の芝田耕を見習い、制作を始めた。戦後、独立美術京都研究所で須田国太郎に師事し、1947（昭和22）年、独立展に初入選。３年後に独立展で独立賞を受賞して1958（昭和33）年には会員となる。1963（昭和38）年に安井賞を受賞。その後、ヨーロッパをはじめ、旧・ソ連や中南米の諸国を歴訪して精力的な制作活動を行なった。日本芸術院賞を受賞。日本芸術院会員。

0102-NPAoJ70　石川寅治（いしかわとらじ）　1875（明治８）年－1964（昭和39）年
　高知県に生まれる。1891（明治24）年に上京し、小山正太郎の不同舎で学び、1900（明治33年）のパリ万国博覧会に出品。1901（明治34）年に、明治美術会の解散を受けて創設された太平洋画会に参加した。1902（明治35）年から２年間、アメリカとヨーロッパに遊学。1907（明治40）年の第１回展から文展に出品。日展に至るまで出品を続け、審査員も務めた。1947（昭和22）年には太平洋画会を脱会し、示現会を創立する。

0102-NPAoJ74　三岸節子（みぎしせつこ）　1905（明治38）年－1999（平成11）年
　愛知県に生まれる。1921（大正10）年に上京し、岡田三郎助に師事。翌年には女子美術学校の２年に編入学し、1924（大正13）年に首席で卒業した。同年、三岸好太郎と結婚。春陽会や独立美術協会を経て、新制作協会に所属し、1946（昭和21）年には発起人の一人として女流画家協会を創立するが、のちに退会。1954（昭和29）年に初めて渡欧し、その後、1974（昭和49）年から15年間、フランスに移住して制作する。文化功労者。

0102-NPAoJ75　黒田重太郎（くろだじゅうたろう）　1887（明治20）年－1970（昭和45）年
　滋賀県に生まれる。鹿子木孟郎に師事し、のちに関西美術院で学ぶ。はじめ、文展に出品するが、1914（大正３）年より二科会に出品。大正年間の２度の渡欧のあと、1924（大正13）年に小出楢重らと大阪に信濃橋洋画研究所を創立。次いで、1937（昭和12）年に全関西洋画研究所を設立して後進の指導に力を尽くした。1943（昭和18）年に二科会を脱会すると、戦後は、二紀会の創立に参加し、京都市立美術大学教授に就任する。

0102-NPAoJ78　原　精一（はらせいいち）　1908（明治41）年－1986（昭和61）年
　神奈川県に生まれる。川端画学校で学び、1906（明治39）年から萬鉄五郎に師事。1927（昭和２）年より春陽会に出品し、春陽会賞などを受賞して、1940（昭和15）年に会員となった。戦後は、1948（昭和23）年に春陽会を退会し、国画会に会員として参加するが、1967（昭和42）年には国画会も退会。以後は無所属で活動を続け、国際形象展などに出品しながら、1975（昭和50）年に女子美術大学の教授に就任。後進の指導に尽力した。

0102-NPAoJ79　吉井淳二（よしいじゅんじ）　1904（明治37）年－2004（平成16）年
　鹿児島県に生まれる。1924（大正13）年に東京美術学校の西洋画科に入学。同年、光風会展に入選し、翌年には白日展に入選。さらに1926（大正15）年には二科展にも入選し、以後は同会に出品を続ける。1929（昭和４）年に卒業するとフランスへ留学。1940（昭和15）年、二科会の会員となり、のちに理事長も務めた。日本芸術院賞を受賞し、1976（昭和51）年に日本芸術院会員。文化功労者となり、1989（平成元）年に文化勲章を受章。

0102-NPAoJ80　山本　貞（やまもとてい）　1934（昭和９）年－
　東京に生まれる。武蔵野美術学校で学び、在学中の1957（昭和32）年、二紀展に初入選した。卒業後は早稲田大学の文学部に入学するが中退し、1964（昭和39）年にアメリカへ渡り、アート・スチューデント・リーグで学んだ。1966（昭和41）年に帰国後も二紀会で活動し、1997（平成９）年、二紀会の理事長に就任。2004（平成16）年に日本芸術院賞を受賞し、同年、日本芸術院会員となった。現在、日本美術家連盟理事長。